# KENWOOD

3.1ch スピーカーシステム

# KSW-700

## 取扱説明書

お買い上げいただきまして、ありがとうございました。
ご使用の前に、この取扱説明書をお読みのうえ、説明の通り正しくお使いください。

また、取扱説明書は大切に保管して、必要になったときに繰り返してお読みください。

本機は日本国内専用モデルですので、外国で使用することはできません。

**お客様の安全のため、必ず『安全上のご注意』をお読みのうえご使用ください。**

株式会社 ケンウッド
Kenwood Corporation

©B60-5686-00/00 (J) KW

# 安全上のご注意

⚠ このページは、感電や火災からあなたを守るため、ご使用前には必ずお読みください。

製品を安全にご使用いただくため、「安全上のご注意」をご使用の前によくお読みください。

## 絵表示について

この取扱説明書では、製品を安全に正しくお使い頂き、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止する為に、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容を良く理解してから、本文をお読みください。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

## 絵表示の例

△記号は、注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は、禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は、行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

お客様または第三者が、この製品の誤使用・故障・その他の不具合およびこの製品の使用によって受けられた損害につきましては、法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切その責任を負いませんのであらかじめご了承ください。

この製品の故障・誤動作・不具合などによって発生した次に掲げる損害などの付随的損害の補償につきましては、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

- お客様または第三者がディスクなどへ記録された内容の損害
- 録音・再生などお客様または第三者が製品利用の機会を逸したことによる損害

この「安全上のご注意」には、当社のオーディオ機器全般についての内容を記載しています。
（説明項目の中には、本文での説明と重複する内容もあります）

# ⚠警告

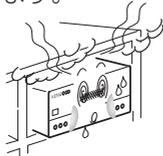
## 交流100ボルトの電圧で使用する

この機器は、交流100ボルト専用です。指定の電源電圧以外で使用すると、火災・感電の原因となります。

## 船舶などの直流（DC）電源には接続しない

火災の原因となります。

## 通風孔をふさがない

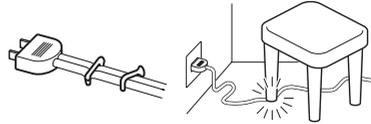
- あおむけや横倒し、逆さまにして使用しない。
- 布を掛けたり、じゅうたん、布団の上に置いて使用しない。
- 風通しの悪い狭い所で使用しない。
  通風孔がふさがると、内部に熱がこもり、火災の原因となります。

## 風呂、シャワー室では使用しない

風呂、シャワー室など湿度の高いところや、水はねのある場所では使用しない。火災・感電の原因となります。

## 水をかけたりぬらしたりしない

火災・感電の原因となります。
雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。

## 電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したり、ステープルや釘などで固定したりしない。
電源コードの上に重いものをのせたり、コードを本機の下敷きにしたりしない。コードを敷物などで覆ってしまうと、気づかずに重いものをのせてしまうことがあります。コードが傷つき、火災・感電の原因となります。

電源コードが傷ついたら（芯線の露出、断線など）販売店または当社サービス窓口に交換をご依頼ください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

## 異常が起きた場合は電源プラグを抜く

内部に水や異物が入ったり、煙が出たり、変な臭いや音がしたりした場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
煙や、異臭、異音が消えたのを確かめてから修理をご依頼ください。

# ⚠警告

## ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない

感電の原因となります。

## 電源プラグを定期的に清掃する

電源プラグにほこりなどが付着していると、湿気等により絶縁が悪くなり、火災・感電の原因となります。
電源プラグをコンセントから抜いて、乾いた布で取り除いてください。



## 機器の上に花びんやコップなど水の入った容器を置かない

水がこぼれて中に入ると、火災・感電の原因となります。

## 機器の内部に水や異物を入れない

機器の通風孔、開口部から内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしない。
火災・感電の原因となります。

## 機器のケースを開けたり改造したりしない

内部には電圧の高い部分があり、火災・感電の原因となります。
点検、修理は販売店または当社サービス窓口にご依頼ください。

## 雷が鳴り始めたらアンテナ線や電源プラグには触れない

感電の原因となります。

## 落下した機器は電源プラグを抜く

機器を落としたり、カバーやケースがこわれたりした場合は、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、点検、修理をご依頼ください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

## 機器の上にろうそくやランプなど火のついた物を置かない

本機のカバーやパネルにはプラスチックが使われており、燃え移ると火災の原因となります。

## ビニール袋は子供の手の届かないところにかたづける

かぶって遊んだりしないようご注意ください。窒息の原因となります。

# ⚠注意

## 電源コードを熱器具に近づけない

電源コードを熱器具（ストーブ、アイロンなど）に近づけない。
コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

## 不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かない。
落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。

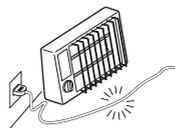
## 湿気やほこりの多い場所に置かない

油煙や湯気の当たる調理台や加湿器のそば、湿気やほこりの多い場所に置かない。
火災・感電の原因となることがあります。

## 温度の高い場所に置かない

窓を閉めきった自動車の中や直射日光があたる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しない。
本体や部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。

## お手入れの際は電源プラグを抜く

お手入れの際は電源プラグをコンセントから抜く。感電の原因となることがあります。

## 電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込む

差し込みが不完全ですと発熱したりほこりが付着したりして、火災の原因となることがあります。また、電源プラグの刃に触れると、感電の原因となることがあります。電源プラグを根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントの場合には、販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。

## 長期間使用しないときは電源プラグを抜く

旅行などで長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。
火災の原因となることがあります。

## 移動させるときは電源プラグを抜きスピーカーコードをはずす

移動させるときは、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜き、スピーカーコードを外す。
コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
また、落下や転倒により、故障やけがの原因となることがあります。

## 電源プラグを抜くときは電源コードを引っ張らない

コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
必ずプラグを持って抜いてください。

# ⚠注意

### 機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きな物を置かない

バランスがくずれて倒れたり、落下したりして、けがの原因となることがあります。

### 機器に乗らない

機器に乗ったり、ぶら下がったりしない。特にお子様にはご注意ください。
倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。

### はじめから音量を上げすぎない

突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。特にヘッドホンをご使用になるときは注意してください。

### 耳を刺激するような大きな音で長時間続けて聞かない

聴力に悪い影響を与えることがあります。特にヘッドホンをご使用になるときは注意してください。

### 長時間音が歪んだ状態で使わない

スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

### サランネットやダクトに手をかけて持ち運ばない

落下や転倒により、故障やけがの原因となることがあります。

### 機器の接続は取扱説明書に従う

関連機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続する。また、接続は指定のコードを使用する。
あやまった接続、指定以外のコードの使用、コードの延長をすると発熱し、やけどの原因となることがあります。

### スピーカーコードを配線する位置に注意する

引っかかったりつまずいたりして、落下や転倒により、故障やけがの原因となることがあります。特にスピーカースタンドや高いところに設置するときは注意してください。

### スピーカーを壁、天井に設置する場合は落下しないように固定する

取扱説明書をよく読み、説明に従って設置する。
取り付け強度に不足があると、スピーカーが落下しけがの原因となることがあります。

### 定期的に内部の点検、清掃をする

3年に1度程度を目安に、機器内部の点検、清掃をお勧めします。販売店、または最寄りのケンウッドサービス窓口に費用を含めご相談ください。
内部にほこりのたまったまま長い間掃除をしないと、火災や故障の原因となることがあります。

# はじめに

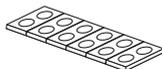
## 付属品

次の付属品がそろっていることを確認してください。

オーディオコード
（白、赤）… 2本

スピーカーコード
サラウンド用（青ライン：10m）… 2本
センター用（赤ライン：3m）… 1本
サブウーファー用（赤ライン：4.5m）… 1本

システムコントロールコード
（φ3.5mm－φ3.5mm）… 1本

サラウンド・センタースピーカー用クッション
… 12個

## 目次

⚠ このマークのついた項目は、安全確保のために必ずお読みください。



### ステレオ音のエチケット

楽しい音楽も、時と場所によっては気になるものです。隣り近所への配慮を十分いたしましょう。ステレオの音量は、あなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。特に静かな夜間には、小さな音でも通りやすいものです。
夜間の音楽鑑賞には､特に気を配りましょう｡窓を閉めたり、ヘッドホンをご利用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

### 本機の保管とお手入れ

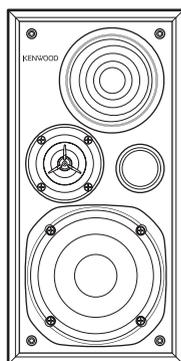
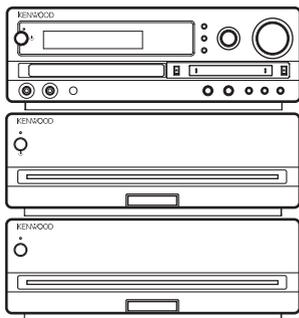
■ 次のような場所に置かない

- 直射日光の当たる場所。
- 湿気やほこりの多い場所。
- 暖房器具の熱が直接当たる場所。

■ 汚れたら

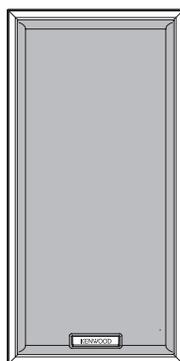
前面パネル、ケースなどが汚れたときは、柔らかい布でからぶきします。シンナー、ベンジン、アルコール、接点復活剤などは変色、変形の原因になることがありますので、ご使用にならないでください。

# 設置のしかた

## メインアンプの設置

C-AXD7
（AX-D7システム）

M-AXD7
（AX-D7システム）

M-AX700

LS-AXD7（AX-D7システム）
左側スピーカー

LS-AXD7（AX-D7システム）
右側スピーカー

**⚠ 注意**

機器を設置するときは、下記のことをお守りください。放熱が十分でないと、内部に熱がこもり、故障や火災の原因となることがあります。

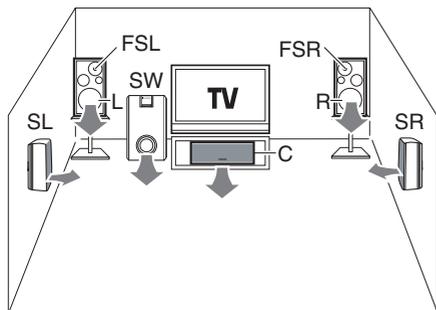
- C-AXD7 と積みかさねるときは、C-AXD7 をシステムの一番上に置いてください。
- C-AXD7 の上面に、放熱の妨げになるものを置かないでください。また、C-AXD7 の各面から、下記に示すスペースを空けてください。

  上面：50cm 以上　背面：10cm 以上
- M-AXD7、M-AX700 の各面から、下記に示すスペースを空けてください。

  背面：10cm 以上
- 本機は冷却のためにファンを使用しています。ベッド、ソファー、じゅうたんなどの上に機器を設置するとほこりを吸い込み火災・故障の原因になることがあります。

機器は電源コンセントに容易に手が届く位置に設置し、異常が起きた場合すぐに電源プラグをコンセントから抜いてください。
また、電源スイッチを切っただけでは機器は電源から完全に遮断されません。
完全に遮断するには、電源プラグを抜いてください。

## スピーカーの設置

AX-D7 システムに、この 3.1ch スピーカーシステムを接続すると、5.1ch サラウンド再生が楽しめます。以下のように設置してください。

L　　：左フロントスピーカー
FSL　：左フロントサラウンドスピーカー
C　　：センタースピーカー
R　　：右フロントスピーカー
FSR　：右フロントサラウンドスピーカー
SR　：右サラウンドスピーカー
SL　：左サラウンドスピーカー
SW　：サブウーファー

- 左右のスピーカーを、テレビをはさんで左右対称に置きます。お聴きになる位置に向けて傾けていただくと効果的です。
- センタースピーカーを、左右のスピーカーの中央に置きます。スピーカー部とお聴きになる位置が向かい合うようにしてください。
- サラウンドスピーカーを、お聴きになる位置の真横か少し後ろの、できるだけ高い位置に置きます。お聴きになる位置に向けて傾けていただくと効果的です。

## テレビの近くで使用するには
### (フロントおよびセンタースピーカー)

このスピーカーシステムをテレビの近くで使用すると、設置のしかたによっては、色むらが発生する場合があります。テレビの自己消磁機能を働かせることにより、色むらを低減させることができますので、次の方法で設置してください。

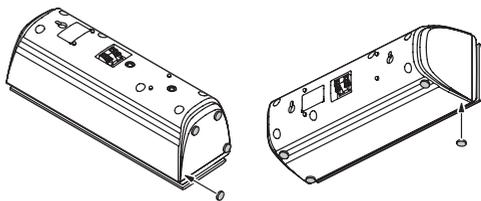
- テレビの主電源をONにしてみて、色むらがあるようでしたらテレビの主電源を15～30分以上OFFにしてください。テレビの主電源をONにし、もしそれでも色むらが発生する場合、スピーカーをテレビから離して設置してください。

・ 近くに磁石など磁気を発生するものが置かれている場合には、スピーカーとの相互作用により、テレビに色むらが発生する場合がありますので、設置にご注意ください。
・ テレビからの電磁波の誘導作用により、ステレオの電源スイッチが OFF のときでも、スピーカーから音が聞こえることがあります。その場合も、テレビとスピーカーを離して設置してください。

## 付属のクッションについて
### (サラウンドおよびセンタースピーカー)

- 図のように、付属のクッションをスピーカーに貼り付けてください。滑り防止とスピーカーの振動を設置面に伝えにくくする効果があります。

サラウンドスピーカー

センタースピーカー

## スピーカーを床または棚に置いて使う

- 床や棚、またはその他の平らなところに置いてください。固定されませんので、倒したりしないように注意してください。

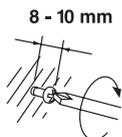
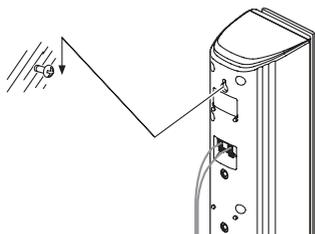
## スピーカーを壁に掛けて使う
### （サラウンドおよびセンタースピーカー）

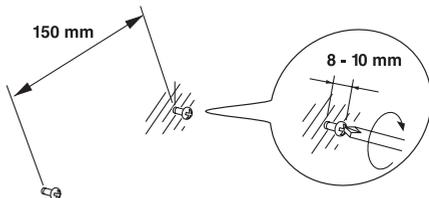
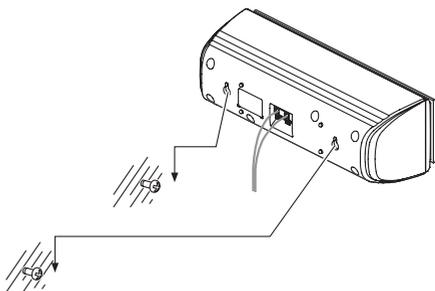
スピーカーには、壁掛け用の穴があります。サラウンドスピーカーは縦に、センタースピーカーは横に掛けることができます。縦掛けの場合は、上部の穴を使い、ねじ 1 本のみで固定します。横掛けの場合は、正しい距離をあけて、ねじ 2 本を使い固定します。

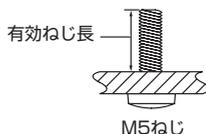
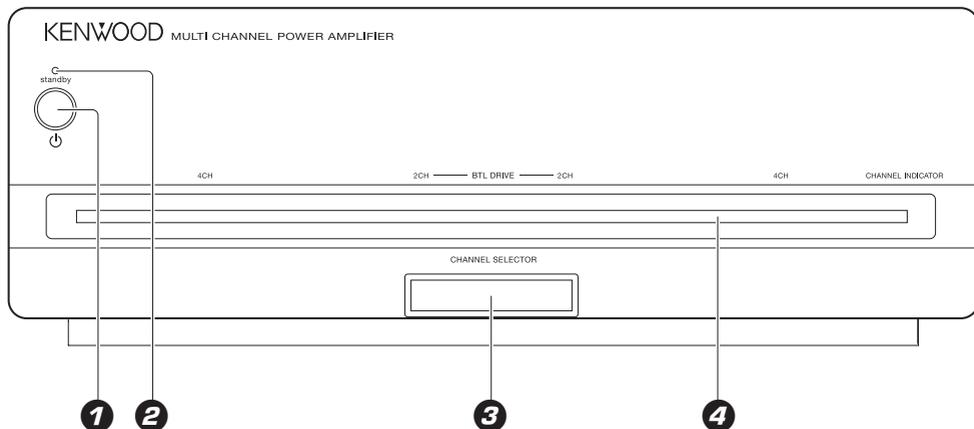
ご注意：
**壁に取り付ける場合、次の事項を確認してから取り付けてください。**
- 取り付ける壁等は、このスピーカーの重さ（0.7 kg）に耐えられる材質、構造の壁に取り付けてください。
- 壁掛け用ねじは付属していません。取り付ける壁等の材質、構造により、取り付け強度が十分にとれる長さの市販のねじを使用してください。
- 取り付ける壁等が、このスピーカーの重さに耐えられるかわからない場合や、不明な点がある場合は、必ず専門の取り付け業者、施工業者にご相談ください。

**取り付け、取り扱いに関しては、この説明書に従ってください。取り付け不備、取り付け強度不足による落下等による、事故、損害に対しては当社はいっさい責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。**

### 縦に掛ける場合

❶ お好みの場所にねじを取り付けます。このときねじの頭と壁の間は8 ～ 10 mm空けてください。

❷ スピーカー上部の穴を、ねじに差し込みます。きちんと固定されているか確認してください。

### 横に掛ける場合

❶ お好みの場所に2本のねじを取り付けます。ねじの間は150mm空け、高さが水平になるようにしてください。このときねじの頭と壁の間は8 ～ 10mm空けてください。

❷ スピーカー背面の2つの壁掛け用の穴を、ねじに差し込みます。きちんと固定されているか確認してください。

## スピーカーをスタンドに取り付けて使う（サラウンドスピーカー）

別売りのケンウッド製スタンド SR-8000 に取り付けて使うことが出来ます。さらに、サラウンドスピーカーは、市販のスピーカースタンド（背面をピッチ 60mm、M5 ねじ（有効ねじ長 10mm ～ 13mm）で止めることができるもの）を使用することができます。詳しくはスピーカースタンドの取扱説明書をご覧ください。

# 各部のなまえと働き

### ❶電源ボタン

電源のオン／スタンバイを切り換えます。

### ❷standby（スタンバイ）表示ランプ

スタンバイ時に点灯します。

### ❸CHANNEL（チャンネル） SELECTOR（セレクター）ボタン

アンプを4チャンネル（25W×4）と2チャンネル（50W×2）に切り換えます。

- 付属のシステムコントロールコードでC-AXD7またはM-AXD7と接続すると、選択したリッスンモードによって自動的にチャンネルが切り換わります。
- "SPEAKER（スピーカー） MODE（モード）"の設定で"5.1CH SYSTEM（システム）"選択時にDolby（ドルビー） Digital（デジタル）やDTS信号が入力されているときは、このキーは働きません。

### ❹表示部

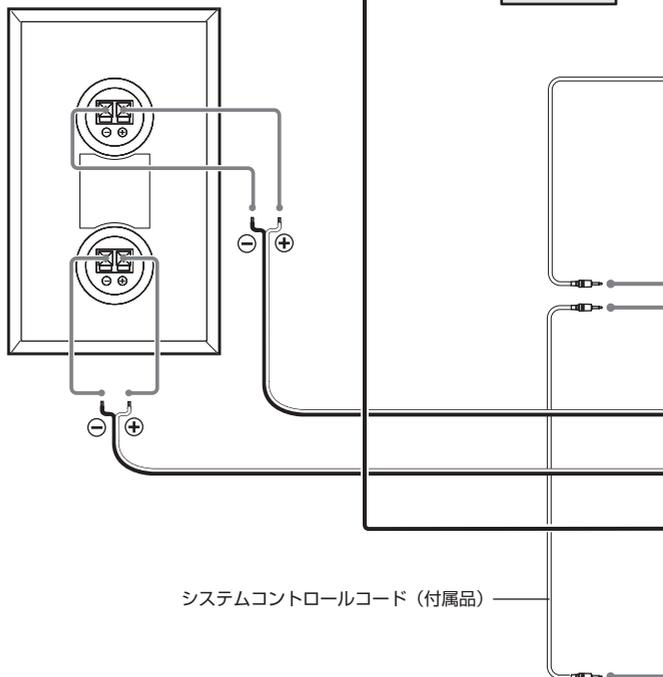
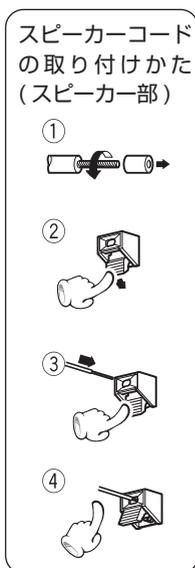
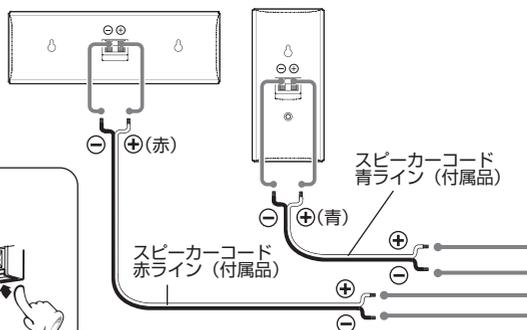
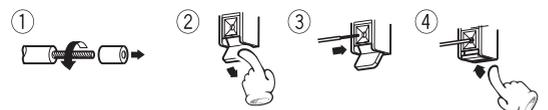
動作チャンネルをランプで表示します。

## スタンバイ状態について

本機のスタンバイ表示ランプが点灯中は、メモリー保護のため、微弱な通電が行われています。これをスタンバイ状態といいます。

# 接続のしかた

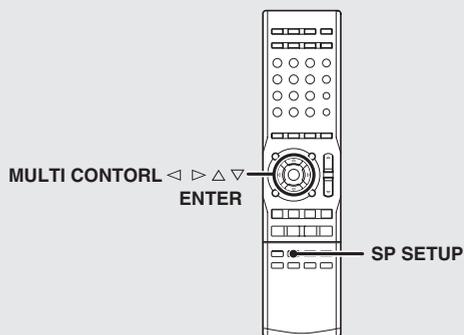
すべての接続コードは確実に差し込んでください。差し込みが不完全な場合は、音が出なくなったり、雑音が発生することがあります。

C-AXD7（AX-D7システム）
サブウーファー
センター
LS-AXD7（AX-D7システム）
左側スピーカー
M-AXD7（AX-D7システム）
M-AX700
オーディオコード（付属品）
左側サラウンド
スピーカー
サブウーファー
電源コード
AC100V、50/60Hz
の電源コンセントへ
入力(プリアンプ)
サブ
ウーファー
サラウンド 2
左
右
センター
スピーカー(6−16Ω)
サラウンド 2
センター
サブウーファー
スピーカーコード 青ライン（付属品）
スピーカーコード 赤ライン（付属品）
(青)
(赤)

# スピーカーの設定をする

サラウンド効果をより高めるにはスピーカーの距離や、音量を正しく合わせておく必要があります。スピーカーの設定をすると、各スピーカーの音量を合わせたり、音の遅延時間を調整することによって、スピーカーの距離の違いを、補正することができます。

システムの選択では "5.1CH SYSTEM" を選んでください。

KSW-700 を接続し、オートルームイコライザー機能を使うこともできます。オートルームイコライザーについては、AX-D7 の取扱説明書 32 ページをご覧ください。

## システムの選択をする

❶ AX-D7のリモコンの[SP SETUP]ボタンを押し、MULTI CONTROL[◁/▷]ボタンで"SPEAKER MODE"を選ぶ。

押すごとに次のように切り換わります。

SPEAKER MODE
SP LEVEL
SP DISTANCE

❷ [ENTER]ボタンを押して確定する。

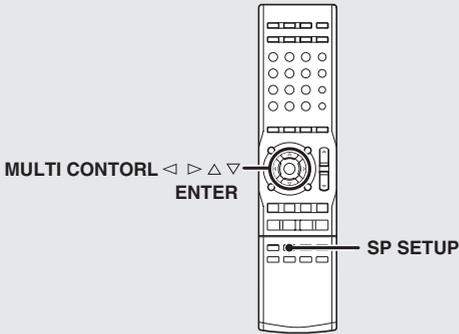
- サラウンドシステム選択のモードになります。

❸ MULTI CONTROL[△/▽]ボタンで"FRONT SYSTEM"または"5.1CH SYSTEM"を選ぶ。

FRONT SYSTEM：
フロントサラウンドシステムで楽しむ場合に選択します。（AX-D7システムオリジナル）
5.1CH SYSTEM：
KSW-700を使用した5.1チャンネルで楽しむ場合に選択します。

❹ [ENTER]ボタンを押して確定する。

- "SPEAKER MODE"表示が点滅します。
- 操作を終了するときは [SP SETUP] ボタンを押します。

## 音量バランスの設定をする

❶ AX-D7のリモコンの[SP SETUP]ボタンを押し、MULTI CONTROL[◁/▷]ボタンで"SP LEVEL"を選ぶ。

押すごとに次のように切り換わります。

SPEAKER MODE
SP LEVEL
SP DISTANCE

❷ [ENTER]ボタンを押して確定する。

- テスト音が出て、自動的にスピーカーが切り換わります。

フロントサラウンドシステムのとき

→ L → FSL → R → FSR → SW ─┐（Lに戻る）

5.1チャンネルシステムのとき

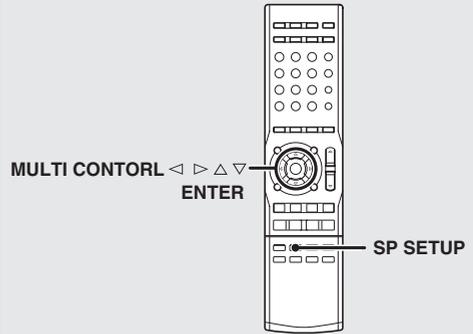
→ L → FSL → C → R → FSR → SR → SL → SW ─┐（Lに戻る）

❸ MULTI CONTROL[△/▽]ボタンを押して音量を調節する。

- ＋ 10dB から－ 10dB の範囲で調整できます。
- 全てのスピーカーからの音量が同じに聞こえるように調節します。サブウーファーは、お好みに合わせて調節してください。

❹ [ENTER]ボタンを押して確定する。

- "SPEAKER LEVEL" 表示が点滅します。
- 操作を終了するときは [SP SETUP] ボタンを押します。

## スピーカー距離の設定をする

❶ AX-D7のリモコンの[SP SETUP]ボタンを押し、MULTI CONTROL[◁/▷]ボタンで"SP DISTANCE"を選ぶ。

押すごとに次のように切り換わります。

SPEAKER MODE
SP LEVEL
SP DISTANCE

❷ [ENTER]ボタンを押して確定する。

- スピーカー "L" の設定モードになります。

❸ MULTI CONTROL[△/▽]ボタンを押してリスニングポジション（試聴位置）とスピーカー "L"の距離を設定する。

- 0.3 m から 9.0 m の範囲で調整できます。

❹ MULTI CONTROL[◁/▷]ボタンを押して次のスピーカーの設定をします。

フロントサラウンドシステムのとき

→ L ↔ R ←（Lに戻る）

5.1チャンネルシステムのとき

→ L ↔ C ↔ R ←
└→ SL ↔ SR ←┘

- 各スピーカーに対して手順 ❷ ～ ❸ の操作で設定します。

❺ [ENTER]ボタンを押して確定する。

- "SPEAKER DISTANCE" 表示が点滅します。
- 操作を終了するときは [SP SETUP] ボタンを押します。

# サラウンド再生

AX-D7システムのリッスンモードを使って、いろいろな種類の映像ソフトで、臨場感をお楽しみいただけます。サラウンド再生を最高の状態でお使いいただくため、ご使用前にスピーカーの設定を行ってください。（14ページ参照）

## サラウンドモードの種類

### Dolby Digital

ドルビーデジタルサラウンドモードでは、ドルビーデジタルプログラムソース( DOLBY DIGITAL マークの付いたDVDやレーザーディスクソフトなど)からの5．1チャンネルのデジタル入力を、デジタルサラウンドサウンドでお楽しみいただけます。今までのドルビーサラウンドと比べて、ドルビーデジタルモードは、音質、空間的な広がり、そしてダイナミックレンジの面で、はるかに優れた効果を演出します。

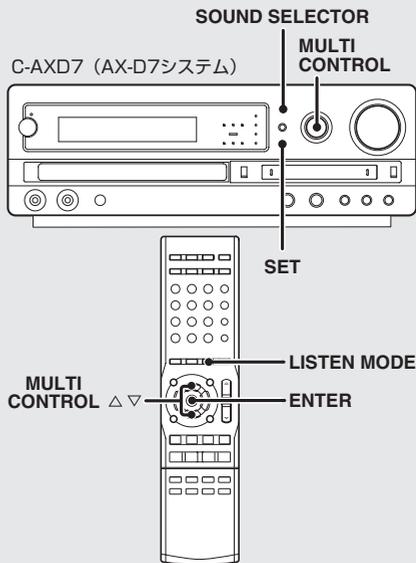
### Dolby Pro Logic II

Dolby Pro Logic II は、従来のPro Logicとの互換性を持ちながら、より高いサラウンド効果を生み出します。このサラウンドシステムは、特に空間的な広がりや指向性、音の明瞭さに重点をおいて設計されています(DOLBY SURROUND マークのあるビデオやレーザーディスクソフト等)。すぐれたフィードバックロジック設計を内蔵し、サラウンドやステレオのマトリックスデコーディング、全帯域サラウンド出力が特長です。
本機にプログラムされているPro Logic IIモードは、Movie、Music、Game、Pro Logicの4種類です。特にGameモードでは、フロントとセンターからの低音のみならずサラウンドチャンネルからの低音もサブウーファーに加えられ、よりダイナミックなサラウンド効果が得られます。

### DTS

DTSはドルビーデジタルを上回るデータ量を持ち、より高音質のサラウンド再生ができます。dts Digital Surround マークの付いたDVDを再生することができます。信号のチャンネル数は、ドルビーデジタルと同じ5．1チャンネルですがデジタル録音時の音声圧縮率を低くしたフォーマットであるため、音の厚みのある高S/Nの再生が可能になっています。また、ダイナミックレンジが広くセパレーションに優れるなど緻密で雄大なサラウンドが特長です。

DTSには ".1" または LFE チャンネルがあります。
このチャンネルが入力されているときは、サラウンドインジケーターの“LFE”が点灯します。（17ページ参照）

## リッスンモードを選択をする

❶ソースを再生する
❷"LISTEN MODE"を選ぶ

本体のとき：

① C-AXD7の[SOUND SELECTOR]ボタンを押し、[MULTI CONTROL]で"SURROUND"を選び、[SET]ボタンを押す。

次のように切り換わります。
SURROUND
D-BASS
TONE

② [MULTI CONTROL]で"LISTEN MODE"を選び、[SET]ボタンを押す。

次のように切り換わります。
V.F.S.
CLEAR VOICE
LISTEN MODE

リモコンのとき：

[LISTEN MODE]ボタンを押す。

**❸ リモコンのMULTI CONTROL[△/▽]ボタンでリッスンモードを選び、[ENTER]ボタンを押す。**

- "FRONT SYSTEM" を選んでいるときは（14 ページ参照）、"Stereo（EQ)" のみ表示されます。
- "5.1CH SYSTEM" を選んでいるときは（14 ページ参照）、"V.F.S."、"CLEAR VOICE" または "Stereo(EQ)" を選んでいるときのみ "D-BASS"、"TONE" の項目が選べます。

### 入力ソースにより、次のように切り換わります。

#### Dolby Digital信号が入力されているとき：

| 文字表示部 | リッスンモード | インジケーター |
|---|---|---|
| "Dolby D" | Dolby Digital | "Dolby Digital" |
| "PL II Movie" | Pro Logic II Movie | "Dolby Digital" "PL II" |
| "PL II Music" | Pro Logic II Music | "Dolby Digital" "PL II" |
| "PL II Game" | Pro Logic II Game | "Dolby Digital" "PL II" |
| "Pro Logic" | Pro Logic | "Dolby Digital" "PL" |
| "Stereo" | ステレオ | "Dolby Digital" |
| "Stereo (EQ)" | ステレオ（EQ ON） | "Dolby Digital" |

Dolby Digitalの例

#### DTS信号が入力されているとき：

| 文字表示部 | リッスンモード | インジケーター |
|---|---|---|
| "DTS" | DTS | "DTS" |
| "Stereo" | ステレオ | "DTS" |
| "Stereo (EQ)" | ステレオ（EQ ON） | "DTS" |

DTSの例

#### Dolby Digital、DTS以外のデジタル信号またはアナログ信号が入力されているとき：

| 文字表示部 | リッスンモード | インジケーター |
|---|---|---|
| "Stereo" | ステレオ | -- |
| "Stereo (EQ)" | ステレオ（EQ ON） | -- |
| "PL II Movie"* | Pro Logic II Movie | "PL II" |
| "PL II Music"* | Pro Logic II Music | "PL II" |
| "PL II Game"* | Pro Logic II Game | "PL II" |
| "Pro Logic"* | Pro Logic | "PL" |

* サンプリング周波数が 96 kHz 信号の場合は選べません。

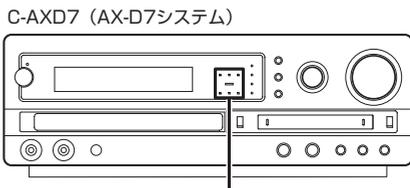
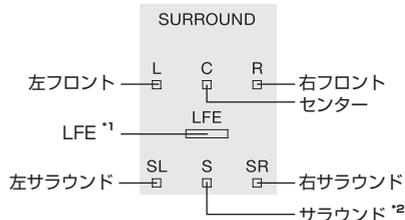
ステレオの例

Stereo

- Dolby Digital、DTS のとき、現在のスピーカー設定以上のチャンネル数を持つ信号が入力された場合は、自動的にダウンミキシング機能が働き、現在の設定に合わされます。

## サラウンドインジケーター

選ばれているソースに記録されている音声信号チャンネル数によって、C-AXD7 のサラウンドインジケーターが点灯します。

C-AXD7（AX-D7システム）

サラウンドインジケーター

***1** LFE = Low Frequency Effects の略。このチャンネルは、サブウーファーに、指向性のない低周波数信号を送り、より深みのある低音の音場効果を再現します。

***2** サラウンド成分が 1 チャンネルのときに点灯します。

# 故障かな？と思ったら

調子が悪いと故障と考えがちですが、サービスに依頼する前に、症状にあわせて一度チェックしてみてください。

| 症　　状 | 対　　策 |
|---|---|
| **電源が入らない。またはチャンネルが切り換わらない。** | • システムコントロールコードを根元までしっかりと差し込んでください。 |
| **CHANNEL SELECTOR（チャンネル セレクター）ボタンを押してもチャンネルが切り換わらない。** | • "SPEAKER MODE"（スピーカー モード）の設定で"5.1CH SYSTEM"（システム）選択時にDolby Digital（ドルビー デジタル）やDTS信号が入力されているときは、このキーは働きません。 |
| **スタンバイ表示ランプが赤色に点滅し、音が出ない。** | • スピーカーコードがショートしている。電源コードを抜いてスピーカーコードを接続し直してください。<br>• 内部的な不具合が発生したと考えられます。電源を切り、電源プラグを抜いて修理をご依頼ください。 |

# 定格

## メインアンプ（M-AX700）

**[ オーディオ部 ]**

AX-D7 とのシステム接続時

4 チャンネル動作時
- 実用最大出力
  - サラウンド ........ 25 W + 25 W（JEITA、8 Ω）
  - センター ........ 25 W（JEITA、8 Ω）
  - サブウーファー ........ 35 W（JEITA、6 Ω）
- S/N 比 ........ 100 dB（JEITA）
- 全高調波ひずみ率 ........ 0.003%（1 kHz、10 W、6 Ω）

2 チャンネル動作時
- 実用最大出力
  - サブウーファー ........ 50 W（JEITA、6 Ω）
  - センター ........ 45 W（JEITA、8 Ω）
- S/N 比 ........ 105 dB（JEITA）
- 全高調波ひずみ率 ........ 0.0025%（1 kHz、19 W、6 Ω）

**[ 電源部・その他 ]**

電源電圧・電源周波数 ........ AC 100 V、50 Hz/ 60 Hz
待機時消費電力 ........ 0.07 W 以下
定格消費電力（電気用品安全法に基づく表示） ........ 130 W
最大外形寸法 ........ 幅 270 mm
高さ 101 mm
奥行 336 mm
質量（重量） ........ 5 kg（正味）

## スピーカー（CRS-W700）

ご注意：サランネットは取り外せません。

**[ サラウンドスピーカー ]**

システム ........ フルレンジスピーカー
エンクロージャー ........ バスレフ型
スピーカーユニット ........ 70 mm コーン型
定格インピーダンス ........ 8 Ω
定格入力 ........ 35 W
最大入力 ........ 70 W
出力音圧レベル ........ 82 dB/W、1m
再生周波数特性 ........ 140 Hz ～ 20,000 Hz
最大外形寸法 ........ 幅 85 mm
高さ 180 mm
奥行 85 mm
質量（重量） ........ 0.5 kg (1 台)

**[ センタースピーカー ]**

システム ........ フルレンジスピーカー
防磁設計（JEITA 規格 グレード I）
エンクロージャー ........ バスレフ型
スピーカーユニット ........ 70 mm コーン型
定格インピーダンス ........ 8 Ω
定格入力 ........ 35 W
最大入力 ........ 70 W
出力音圧レベル ........ 84 dB/W、1m
再生周波数特性 ........ 130 Hz ～ 20,000 Hz
最大外形寸法 ........ 幅 250 mm
高さ 85 mm
奥行 85 mm
質量（重量） ........ 0.7 kg

**[ サブウーファー ]**

エンクロージャー ........ バスレフ型
スピーカーユニット ........ 160 mm コーン型
定格インピーダンス ........ 6 Ω
定格入力 ........ 35 W
最大入力 ........ 70 W
出力音圧レベル ........ 83 dB/W、1m
再生周波数特性 ........ 35 Hz ～ 500 Hz
最大外形寸法 ........ 幅 215 mm
高さ 350 mm
奥行 342 mm
質量（重量） ........ 6.8 kg

本製品は「JIS C61000-3-2適合品」です。

- これらの定格およびデザインは、技術開発に伴い予告なく変更することがあります。
- 極端に寒い（水が凍るような）場所では十分な性能が発揮できないことがあります。

# 保障とアフターサービス



## 保証書（別途）

製品には保証書が添付されております。保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」等の記入をお確かめの上、販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

## 保証期間

保証期間は、お買い上げの日より1年間です。
電池や、一部の消耗部品の交換、ならびに落下、水没など、不適切なご使用による故障の場合は、保証期間内でも有料となります。詳しくは保証書をご覧ください。

## 修理に関するご相談・ご不明な点は

修理に関するご相談ならびにご不明な点は、お買い上げの販売店または最寄りのケンウッドサービス窓口にお問い合わせください。（お問い合わせ先は、「ケンウッド全国サービス網」20ページ参照）

## 補修用性能部品の最低保有期間

当社は、このステレオの補修用性能部品を、製造打ち切り後8年保有しております。
補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

## シリアル番号について

システム商品の各機器にシリアル番号が付けられておりますが、保証書にはシステム管理用として、別のシリアル番号が印刷されています。
付属の保証書で、お買い上げのシステム機器（基本システム）すべての保証修理が受けられます。

# 修理を依頼されるときは

「故障かな？と思ったら」に従って調べていただき、なお異常がある時は、製品の使用を中止し、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店または最寄りのケンウッドサービス窓口にお問い合わせください。

この製品の故障・誤動作・不具合などによって発生した次に掲げる損害などの付随的損害の補償につきましては、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

- お客様または第三者がテープ・ディスクなどへ記録された内容の損害
- 録音・再生などお客様または第三者が製品利用の機会を逸したことによる損害

### ■ 保証期間中は

保証期間中は保証書の規定に従って、お買い上げの販売店またはケンウッドのサービス窓口が修理をさせていただきます。
修理に際しましては保証書をご提示ください。

### ■ 出張修理／持込修理

「出張修理」、「持込修理」のどちらが適用されるかは機種によって異なります。保証書の記載をご確認ください。出張修理を依頼される時は、次のことをお知らせください。

- 製品名
- 製造番号（Serial No.）
- お買い上げ年月日
- 故障の症状（できるだけ具体的に）
- ご住所
  （ご近所の目印等も併せてお知らせください）
- お名前、電話番号、訪問ご希望日

### ■ 保証期間が過ぎているときは

保証期間が過ぎている時は、修理すれば使用できる場合には、ご希望により有料で修理させていただきます。

### ■ 修理料金の仕組み

（有料修理の場合は、次の料金をいただきます）

- 技術料：故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等の設備費や、一般管理費などが含まれています。
- 部品代：修理に使用した部品の代金です。その他、修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
- 出張料：製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。
- 送　料：郵便、宅配便などの料金です。保証期間内に無償修理などを行うにあたって、お客様に負担していただく場合があります。

# ケンウッド全国サービス網

使いかたや製品に対するお問合せは、カスタマーサポートセンターをご利用ください。
修理などアフターサービスについてのお申し込みは、お買い上げの販売店または最寄りのケンウッドサービス窓口にお申しつけください。

(各サービス窓口の名称、所在地、電話番号は変更になることがありますのでご了承ください) **2007年3月現在**

**北海道**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 札幌サービスセンター | 〠007-0834 | 札幌市東区北34条東14-1-23 | ☎(011) 743-7740 |

**東北**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 仙台サービスセンター | 〠984-0042 | 仙台市若林区大和町5-32-12(サンライズ大和1F) | ☎(022) 284-1171 |
| 盛岡サービスセンター | 〠020-0124 | 盛岡市厨川4-5-11 | ☎(019) 646-2311 |

**関東・信越**

| | | | |
|---|---|---|---|
| さいたまサービスセンター | 〠330-0801 | さいたま市大宮区土手町1-2(JA 共済埼玉ビル1F) | ☎(048) 647-6818 |
| 千葉サービスセンター | 〠277-0081 | 柏市富里1-2-1 | ☎(04) 7163-1441 |
| 横浜サービスセンター | 〠226-8525 | 横浜市緑区白山1-16-2 | ☎(045) 939-6242 |
| 新潟サービスセンター | 〠950-0923 | 新潟市姥ケ山1-5-37 | ☎(025) 287-7736 |
| 目黒サービスセンター※ | 〠153-0042 | 目黒区青葉台3-17-9 | ☎(03) 3477-5411 |

**中部・甲州**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 名古屋サービスセンター | 〠462-0861 | 名古屋市北区辻本通1-11 | ☎(052) 917-2550 |
| 静岡サービスセンター | 〠420-0816 | 静岡市葵区沓谷5-61-1 | ☎(054) 262-8700 |
| 松本サービスセンター | 〠390-0832 | 松本市南松本2-7-30(昭和ビル2F) | ☎(0263) 26-7331 |
| 金沢サービスセンター | 〠920-0036 | 金沢市元菊町21-87 | ☎(076) 265-5045 |

**近畿・四国**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 大阪サービスセンター | 〠532-0034 | 大阪市淀川区野中北2-1-22 | ☎(06) 6394-8075 |
| 高松サービスセンター | 〠760-0068 | 高松市松島町3-1 | ☎(087) 835-2413 |

**中国**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 広島サービスセンター | 〠731-0137 | 広島市安佐南区山本1-8-23 | ☎(082) 832-2210 |

**九州**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 福岡サービスセンター | 〠815-0035 | 福岡市南区向野2-8-18 | ☎(092) 551-9755 |
| 鹿児島サービスセンター | 〠890-0063 | 鹿児島市鴨池2-15-10(パレス鴨池1F) | ☎(099) 251-6347 |
| 沖縄サービスセンター | 〠901-2101 | 浦添市西原4-36-17(株)物琉2F | ☎(098) 874-9010 |

● ケンウッドサービス窓口　営業時間のご案内：
午前10 時から午後6 時まで
月曜日〜金曜日（土曜、日曜、祝日及び当社休日を除く）

※目黒サービスセンターは修理持込専用窓口となっております。
電話でのお問合せはカスタマーサポートセンターへの転送にて承ります。

## カスタマーサポートセンター

カスタマーサポートセンター
ナビダイヤル　☎ 0570-010-114（一般電話・公衆電話からは、どこからでも市内通話料金でお問い合わせが可能です）
携帯電話、PHS、IP 電話からのご利用は　☎ (045) 933-5133
FAX (045) 933-5553
〠 226-8525　横浜市緑区白山1-16-2

● カスタマーサポートセンター　営業時間のご案内：
月曜〜金曜　午前9 時30 分から午後6 時
土曜　午前9 時30 分から午後12 時、午後1 時から午後5 時30 分
（日曜、祝日及び当社休日を除く）

KENWOOD
株式会社 ケンウッド
〒192-8525　東京都八王子市石川町 2967-3